

英語の否定疑問文に対する日本語的な応答

渡 邊 信

1. 英語の否定疑問文に対する一般的な応答

英語の否定疑問文の一般的な答えのパターンが<yes, 肯定文>および<no, 否定文>であることは日本人学習者にもよく知られている。定評のある学習文法書 *Practical English Usage* (2005 年、Michael Swan 著) にも以下の記述がある(括弧内は筆者による日本語訳):

- (1) In English, *yes* is used with affirmative sentences and *no* with negative sentences. In answers to negative questions and statements, *yes* and *no* are chosen according to the form of the answer, not in order to show agreement or disagreement with the speaker. (Swan, 2005: 634)

(英語では *yes* は肯定文、*no* は否定文と用いられる。否定疑問文に対する応答では、*yes* と *no* はあくまで答えの形*<*筆者注：要するに肯定か否定かということ>によって選択されるのであり、同意あるいは不同意を伝える為に用いられるのではない。)

例えば、とてもシンプルな否定疑問文(2)の答えは(3a)か(3b)のどちらかである(括弧内に日本語訳を付けた)¹ :

¹ 否定疑問文の詳細に関しては Huddleston & Pullum (2007: 879-886)の *Biased Questions* (「傾きのある疑問文」)に関する議論が網羅的である (Watanabe (2011)で要約したの

- (2) Didn't you go? (行かなかったんですか?)
(3) a. Yes, I did. (いいえ、行きましたよ。)
b. No, I didn't. (はい、行きませんでした。)

Yes は肯定文、*no* は否定文と用いるという単純なルールだが、これを運用するとなると日本語話者にはなかなか難しい。なぜなら(3a)-(3b)と括弧内の日本語訳を比べれば明らかなように、日本語では<はい、否定文> <いいえ、肯定文>という逆パターンが現れているからだ。

2. 英語の否定疑問文に対する日本語的な応答——<*yes*, 否定文>と<*no*, 肯定文>

本稿では、実は英語でも否定疑問文の答えに<*yes*, 否定文>と<*no*, 肯定文>という日本語的なパターンが現れるという事実を紹介し、(1)に示したSwanの一般化が必ずしも正しくないことを示したい。ただ、この事実が日本人英語学習者にとって朗報というわけではない。あくまで限定的に起こるため、その成立条件を正確に把握しておかなければならず、むしろ英語における *yes* と *no* の理解をさらに困難にする要因であると考えられるからである。

まず(2)とは形の異なるふたつのタイプの否定疑問文を導入したい(結局、3タイプの英語の否定疑問文があることになる)。以下の例文を考えてみよう：

- (4) a. You didn't go (of course, I take it, right)?
b. Did you not go?

(4a)はいわゆる「平叙疑問文(declarative question)」で、語順変化がなく、疑問の意味はもっぱら文末上昇イントネーションによって表現される(文末の括弧内の表現はなくてもよい。ちなみにこれらは主語-助動詞倒置のある否定疑

で参照して欲しい。(2)は、いわゆる「否定に傾いた」否定疑問文で、話者は聞き手が<行かなかった>と文脈などから判断している。否定疑問文は肯定に傾くこともある。例えば *Didn't you say something?* の話し手は<聞き手が何か言った>とっており、この疑問文はその推定の確認の為に用いられる。新井(2012)は映画やテレビ番組から収集した否定疑問文の傾きを肯定表現(*some* など)と非肯定表現(*any* など)と関連付けて詳細に論じているので参照されたい。

問文には現れない²。(4b)では、(2)で *didn't* が文頭に置かれているのとは対照的に、*did* のみが文頭に置かれ、*not* は主語の右側に残されている³。

(4a)-(4b) に関しては、(3a)-(3b) の応答も許されるが、<yes, 否定文><no, 肯定文>のパターン、すなわち(5a)-(5b) も可能な応答となる：

(5) 日本語的な応答：

a. Yes, I didn't.

b. No, I did.

一体なぜなのだろう？

3. 説明

(4a)-(4b)が(5a)-(5b)を応答として許すのは、否定平叙疑問文と、主語一助動詞倒置を伴うが *not* を主語の右側に置く否定疑問文が、(2)よりも強い「否定の傾き」を表現するからである。(4a)-(4b) の話者は<相手が行かなかったこと>を状況などからほぼ確信しており、日本語に訳すとすれば「行かなかったんだ？」と自分の理解を確認しているにすぎない。(5a)-(5b) の *yes* と *no* はこの「否定の傾き」に対する反応、言い換えるなら(1)の一般化に反して相手への同意と不同意をそれぞれ伝達しているのである。このように考えると(6a)-(6b)のようにパラフレーズできよう：

(6) (You didn't go? / Did you not go? 行かなかったんだ?)

a. Yes, you are right. I didn't. (はい、そうです。行きませんでした。)

b. No, you are not right. I did. (いいえ、そうではありません。行きましたよ。)

² 平叙疑問文に関しては Huddleston & Pullum (2002: 881-883) が簡潔でわかりやすい。Gunlogson (2003) は平叙疑問文の用法とイントネーションのみに焦点を絞ったおそろく唯一の研究書である。また、鈴木(2012)は映画とテレビ番組から平叙疑問文とその応答を多く収集し説明を試みているのでぜひ参照されたい。

³ このタイプの否定疑問文(=主語-助動詞倒置があるが *not* は主語の後ろに置かれるもの)の用法とそれらが許す応答のパターンについては私が知る限り今まであまり論じられていないようだ。

yes と no が質問者の否定の傾きに対する意思表示であるとするれば、(5a) は(6a)、(5b)は(6b) から下線部を省略したものだと考えられる。

4. まとめ

ここまでの議論を(7)の表にまとめた。

(7) 英語の否定疑問文3タイプと応答パターン

① Didn't you go?	② You didn't go?	③ Did you not go?
Yes, I did.	Yes, I did.	
No, I didn't.	No, I didn't.	
	Yes, (you are right) I didn't.	
	No, (you are not right) I did.	

英語の否定疑問文にはこのように3つのタイプがある。タイプ①は *nt* が助動詞などに接語化して文頭に置かれるもので、応答としては <yes, 肯定文> と <no, 否定文> のみが可能である。タイプ②は語順変化のない平叙疑問文で、タイプ③は主語-助動詞倒置はあるが *not* は主語の右側に残されるもの。どちらのタイプも <yes, 肯定文> と <no, 否定文> に加え <yes, 否定文> と <no, 肯定文> のパターンも応答として許される(したがって、4通りの答え方が可能!)⁴。

日本語話者が英語を学ぶ際、否定疑問文の応答に関して、(8)のような「言語差」を刷り込まれやすい：

⁴ では、タイプ②とタイプ③の違いは何なのだろう。(4)に関する議論で述べたが、*of course*、*I take it*、*right*などは否定平叙疑問文には現れるが、タイプ③には現れない：

- (i) a. You didn't go, {of course, I take it, right}?
b. *Did you not go, {of course, I take it, right}?

これを説明する為にはタイプ②とタイプ③との間に否定の傾きの強さに関するグラデーションを仮定する必要があるだろう。つまり *of course*、*I take it*、*right* と共起できるほど強い否定バイアスがタイプ②にはあるが、タイプ③にはないと考えるのである。

- (8) a. 英語の否定疑問文への応答：<yes, 肯定文><no, 否定文>
 b. 日本語の否定疑問文への応答：<はい、否定文><いいえ、肯定文>

(7)のタイプ②とタイプ③の否定疑問文は(8b)のパターンの応答も許すので、このような「言語差」は誤りであることを、英語でビジネスや外交交渉などを行う必要のある学習者は知らなければならないであろう。yes と no の理解不足は、致命的な誤解を生じかねないからだ。

最後に、日本語でも英語的な応答が許される場合があることを紹介したい。(9)を見て欲しい：

(9)日本語の否定疑問文2タイプと応答パターン

① 行かなかったんですか？	② 行ったんじゃないの？
いいえ、行きました。	はい、行きました。
はい、行きませんでした。	いいえ、行きませんでした。

詳細は日本語文法の名著 *The Structure of the Japanese Language* (1973 年、Susumu Kuno 著)の23章を参照して頂くことにするが、ここでは日本語の否定疑問文をごくごく大雑把に2つのタイプに分けた。「ない」(あるいは「なかった」)が「の」(あるいはその縮約形の「ん」)の左側に現れるタイプ①と、右側に現れるタイプ②である⁵。タイプ①の日本語否定疑問文に対する応答は、<いいえ、肯定文>あるいは<はい、否定文>である。タイプ②の日本語の否定疑問文に対する応答は、<はい、肯定文><いいえ、否定文>でこれはむしろ<英語的>なパターンである。ここでも(7a)-(7b)のような「言語差」を仮定することが誤りであることが示されるだろう。

⁵ この形式上の違いと「傾き」に関しては明確な対応関係がある。タイプ①は否定に、タイプ②は肯定に傾く否定疑問文である。

参考文献

- Gunlogson, C. 2003. True to form: rising and falling declaratives as questions in English. New York: Routledge.
- Huddleston, Rodney. & Geoffrey Pullum K. 2002. The Cambridge grammar of the English language. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kuno, Susumu. 1973. The structure of the Japanese language. Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.
- Swan, Maichael. 2005. Practical English usage (third edition). Oxford University Press.
- Watanabe, Shin. 2011. Biased questions: perspectives from the hierarchical semantics model. *Reitaku University Journal*, 92, 207-221.
- 新井済人. 2012. 口語英文法の特質—否定真偽疑問文を中心に—. 修士論文, 麗澤大学, 修士課程英語教育専攻.
- 小林敏彦. 2010. 口語英文法の実態. 小樽商科大学出版会.
- 鈴木伊作. 2012. 口語英文法の世界—平叙疑問文の意味とその応答に関して—. 修士論文, 麗澤大学, 修士課程英語教育専攻.